

【第2回戸田市国民健康保険運営協議会開催報告について】

【開催日】 令和2年8月11日（火）

※全委員の意見が集約した日を以って開催日とする。

【開催方法】 書面開催

【出席委員】 15名（回答書により返信）

【公開方法】 戸田市ホームページにて報告内容を議事録として公開

【報告及び議事案件】

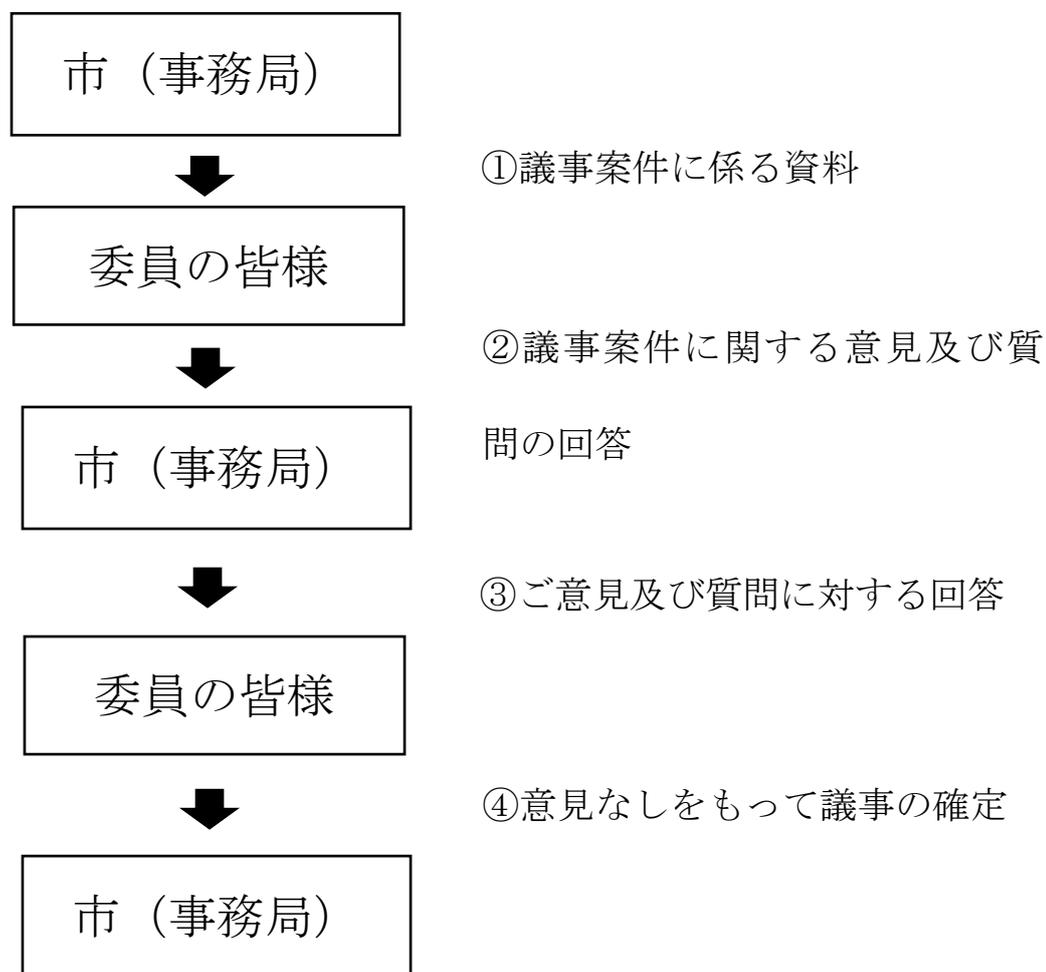
【議事案件】

- （1） 令和元年度戸田市国民健康保険特別会計決算について
- （2） 戸田市国民健康保険事業の重点取組について（令和元年度決算）

【国民健康保険運営協議会の書面開催による議事進行について】

新型コロナウイルス感染症予防の観点から、当面の間、書面開催を予定しておりますので、可能な限り、丁寧な議論の場として頂くため、今後は以下のとおり議事を進めてまいります。

(議事進行のフロー)



令和2年8月11日付、文書による議事案件の審議結果について、下記のとおりご報告申し上げます。

(1) 「令和元年度戸田市国民健康保険特別会計決算について」の報告について

一般会計からの法定外繰入金について、戸田市国民健康保険赤字解消計画書（第2年次）に対して、取り組んだ結果を知りたい。

【回答】

平成29年度を起点とし、第6年次の令和5年度までに、616,909千円の赤字削減を計画しておりますが、第2年次である令和元年度において639,041千円の赤字削減を達成しました。

達成した要因として、被保険者数の減少に伴う規模の縮小もありますが、納付金や償還金が減少したことに加え、診療報酬の返還金として約6千万円の収入があったなど、プラスの特殊要因が重なったことも要因の一つと考えられます。

従いまして、収納率の向上、法定限度額の改定、医療費の適正化等の取組を引き続き推進するとともに、任意給付事業（※1）の見直しを検討し、国保財政の健全化に努めてまいります。

※1 任意給付事業とは、市独自で行う給付事業のことです。各市により実施の取組や補助額が異なります。

例えば、県内でも脳ドック補助は実施していない市が半分程度あり、また、その補助額も17500円～50000円と異なっています。

戸田市の任意給付	宿泊補助	3千円×2泊まで
	人間ドック補助	2万5千円
	脳ドック補助	5万円（3年に1回）

(2) 「戸田市国民健康保険事業の重点取組について（令和元年度決算）」について

①ジェネリック医薬品普及率（数量シェア）についての結果、及びその結果に対する今年度の取り組みがあれば知りたい。

【回答】

令和元年のジェネリック医薬品の普及率（平均）は79.9%であり、これは埼玉県内市の中でも、上位5番目と高い値にあります。市の取り組みとしましては、この値を維持するため、これまで同様、被保険者証更新時や国民健康保険加入時に、ジェネリック希望シールの配布、ジェネリック医薬品利用差額通知（年2回）を実施する予定です。また、ジェネリック医薬品の促進による財政効果としては、約40万円になります。

②（保険料収納対策について）

現年、一般、全体ともに収納率が令和元年度において、前年度より収納率が低下している原因は何か。また、新型コロナウイルス感染症による経済活動低下の影響は、早くても第8期の納期限に生じると考えるが、感染症が収納率の低下に影響を及ぼすか。

【回答】

現年分の令和元年度と前年度の調定額及び収入済累計額比較（参考1）において、調定額の減少に合わせ、収入済累計額も同程度の減少になっていることから、-0.2%の減少ではあるが、昨年と同程度の収納率と考えます。

一方で、国民健康保険税8期の納期限となっている令和2年2月以降の単月收入済額（参考2）においては、前年同期と比べ収入済額が明らかに減少していることが分かり、これらの結果が、新型コロナウイルス感染症等の影響による経済活動の自粛が起因となっているかは不明ではあるが、例年どおりの収入がなかった事実により収納率が低下したと考えます。

（参考）（1）調定額と収入済累計比較

（現年分）	調定額	収入済累計額	収納率（前年比較）
令和元年度	2,828,826,400 （▲105,999,100）	2,505,636,196 （▲101,485,321）	88.6% （▲0.2）
平成30年度	2,934,825,500	2,607,121,517	88.8%
（滞納繰越分）	調定額	収入済累計額	収納率（前年比較）
令和元年度	1,299,687,457 （▲16,491,973）	201,713,317 （+5,177,350）	15.5% （+0.6）
平成30年度	1,316,179,430	196,535,967	14.9%

(2) コロナ下の単月収入済額の増減比較

現年		時期	滞繰	
令和元年度	平成30年度		令和元年度	平成30年度
385,249,500	388,995,648	12月	16,548,264	20,274,670
192,867,057 (R2)	172,126,783	1月	15,957,289	10,062,042
224,236,300 (R2)	255,179,855	2月	12,458,548	13,116,182
250,024,212 (R2)	259,739,556	3月	15,314,864	13,166,553
47,672,911 (R2)	47,652,118	4月		
14,095,016 (R2)	26,661,857	5月		

※網掛けは現年の2月以降に前年比較で減少した月

③収入未済の状況

収入未済額が前年度に比べて増加しているが、その原因と今後の取り組みについて知りたい。

【回答】

収納率の低下及び令和2年2月以降の収入済額の減少が原因と考える。今後の取組としては、今般の新型コロナウイルス感染症等の影響で収入が減少し、一時に納付が困難となった方には、特例の徴収猶予制度を案内していく一方で、納税資力がありながら納付しない方については滞納処分を厳正に執行するといった、収入状況に応じた取組を進めてまいります。

④納付方法の状況

(ア) コンビニ納付率が前年度に比較して低下しているが、Pay Bなどの他の納付手段が多様化したことによるものか。また、Pay B等の納付手段を導入したことにより、納税に係る行政コストは上昇したのか。

【回答】

コンビニ納付率の低下は、他の納付方法が拡充されたことが一因であり、また、1件あたりのコストはPay Bもコンビニも同じです。

(イ) Pay Bで納付した場合、納付方法としては口座振替に属するのか。

【回答】

Pay Bで納付した場合、納付方法としては口座振替には属しません。

(3) 「その他ご意見」について

①新型コロナウイルス感染症の終息が見通せない状況のなか、保険者努力支援制度によるインセンティブが実施されている。今後の保健事業（特定健診、特定保健指導）について、感染症予防を踏まえICTを活用して、実施率の低下を防ぐ方法等、検討していたら伺いたい。

【回答】

特定健診については、感染症拡大の状況を踏まえ、蕨戸田市医師会様と本年4月～6月の間意見調整を行い、実施期間を例年の「6月～12月」から「9月～2月」へ変更し、また、実施期間中も感染状況による一時休止等を可能とするため事前予約制といたしました。また、国から健診実施環境の感染予防に関する通知の発出があり、情報共有を図ったうえで、受診者へのインセンティブは今年度感染予防マスクとしたところです。

ICTの活用については、現段階では検討しておりませんが、頂いた意見については、県の実務担当者研修会等の場を活用して、情報共有を図ってまいります。引き続き、新型コロナウイルス感染症予防に十分留意しながら、保健事業を継続いたします。

②運営協議会の書面開催については、新型コロナウイルス感染症予防の観点から、次回以降も引続き、実施していただきたい。

【回答】

今後の運営協議会の開催につきましては、状況に応じて判断してまいりたいと考えております。

【事務局】

議事案件に関する意見及び質問の回答（１）～（２）につきまして、全委員より「意見なし」との回答をいただきましたので、議事の確定といたします。
なお、第３回戸田市国民健康保険運営協議会（令和２年１０月書面開催予定）では、議案（１）「令和元年度戸田市国民健康保険特別会計決算について」に関して、委員からご質問頂いた「赤字解消計画の取組み」について、任意給付事業等の今後の見直し案を、より具体的にご議論頂くこととします。